

前原遺跡は駅家か？

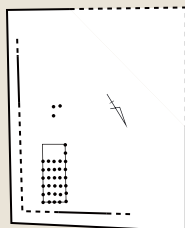
うまや 駅家ってなあに？

奈良時代頃、都と地方を結ぶ官道（今でいう国道や高速道路）が計画的に整備されました。駅家は、その官道に沿って一定の距離ごとに置かれていた施設で、乗継ぎ用の馬が備えられました。

当時、都と九州の大宰府を結ぶ古代山陽道は最も重要な路線（官道）とされ、外国使節の宿泊所も兼ねていて迎賓館的な性格もあったため、朱塗りの柱、漆喰の白壁に、瓦が葺かれた豪華な建物であったと伝えられています。

他の駅家遺跡との比較

前原遺跡の全体の建物配置はわかっていません。区画施設の大きさ、建物の規模など、似ているところもあります。

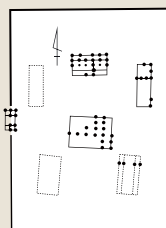


前原遺跡

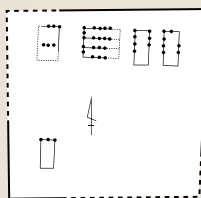
布勢駅家・野磨駅家とともに、「駅家跡」であることが確定している数少ない遺跡です。



0 50m



やまのうまや おろち いせき
野磨駅家(落地遺跡)
(兵庫県赤穂郡上郡町)



ふせのうまや こいぬまる いせき
布勢駅家(小犬丸遺跡)
(兵庫県たつの市)

建物配置と規模の比較

出土瓦の特徴

備後の「国府系瓦」といわれる、平城宮で葺かれた瓦に似た文様の軒瓦が多数出土しました。駅家の特徴づける瓦ではないかと言われています。品治駅家と推定される最明寺跡（中島遺跡：福山市駅家町）では、同じ文様の軒瓦のほか、同様の鬼瓦も出土するなど、共通点が多くみられます。



軒丸・軒平瓦



鬼瓦

前原遺跡から出土した軒瓦と鬼瓦

なぞ まだまだ謎の多い前原遺跡



前原遺跡を駅家と考え、遺跡の近くを山陽道が通っていたことになります。府中市教育委員会では、備後国府の西の入口にあたる「芦田駅家」は特に重要であったので、国府との関係性から、あえて狭い谷間という立地条件の厳しい場所に設置したのではないかと考えています。しかし、建物の具体的な構造や性格、古代山陽道の位置もはっきりしておらず、今後の調査や研究の進展が期待されます。

いずれにしても、前原遺跡は、全国的にも注目されている、府中市の重要な遺跡です。

あしだの うまや 芦田駅家推定地

まえ ばら い せき 前原遺跡を探る

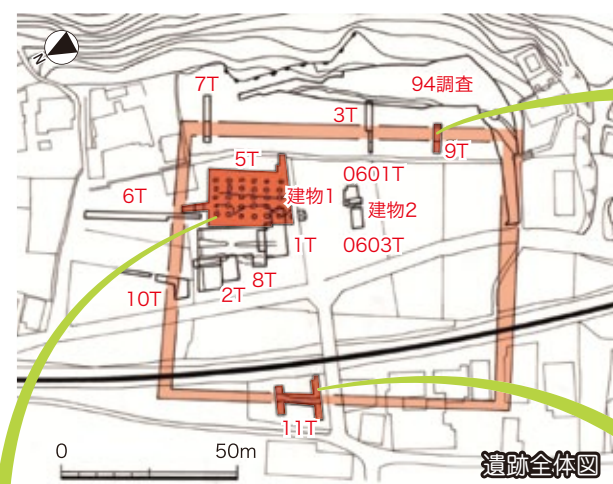
前原遺跡は、府中市父石町前原に所在する遺跡です。芦田川が大きく湾曲し南から北に流れる部分の狭い谷の東側、山裾の緩やかな斜面から川岸にかけての幅約百二十mの平地に位置しています。昭和十年（一九三五）の福塩線建設に伴う工事、奈良時代の瓦が大量に出土したことから当初は寺院跡と考えら

れ、「父石廃寺」や「前原廃寺」と呼ばれていました。現在では「芦田駅家（あしだのうまや）」と考える説が有力になっています。駅家（うまや）説は、「マエハラ」という地名が「ウマヤ」↓「マヤ」↓「マエ」とつながることや、大量に出土している瓦を他地域の瓦文様と比較研究した結果から推定されているものです。



前原遺跡発掘！！～平成6年から平成18年までの調査成果～

平成6年(1994)から平成18年(2006)にかけて、府中市教育委員会が中心となって発掘調査を行ないました。調査の結果、奈良時代に、南北約93m～97m、東西約77m、瓦葺きの築地塀に囲まれた施設があったことが確認され、大量の瓦(軒平瓦、軒丸瓦、面戸瓦、鬼瓦)、まじない用の土製品などが出土しました。壊された古墳も見つかり、施設をつくるために、大規模な造成工事が行なわれたこともわかりました。



発見！① 巨大な建物跡(建物1)

掘立柱建物の柱穴は、隅丸方形で、1辺1.2m以上の大きさです。建物の規模は、東西方向の柱が5本、間隔が2.4mずつの全長9.6m、南北方向では柱が7本以上で、間隔が3.6mずつの全長21.6m以上になります。国府に匹敵する規模の建物があったといえるでしょう。その後、同じ場所で礎石建物に建て替えられました。梁間(東西)と桁行(南北)の柱の間隔が異なることも特徴です。



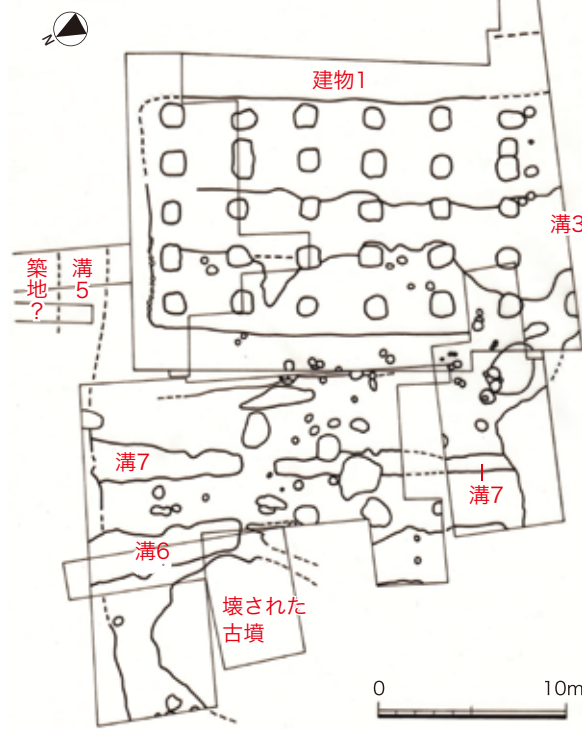
建物の様子(柱があった場所を赤で示しています)



礎石を支える根石(建物1)



礎石(建物2)

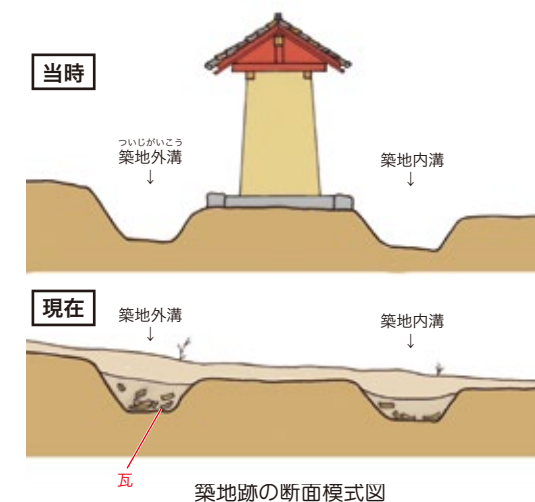


建物1 周辺図

発見！② 築地跡



建物の西方で、築地跡と思われる高まりの両側に溝がみつかりました。溝からは、屋根から落ちたと思われる瓦が見つかり瓦葺きの築地塀があったようです。



築地跡の断面模式図

発見！③ 区画溝



東側を区画する溝も見つかりました。築地に伴う外側の溝の可能性があり、古代山陽道の側溝を兼ねていた溝かもしれません。

発見！④ まじないの道具

土馬は、病気や災害を防ぐまじないに使われたとされます。足や頭が欠けて見つかることが多く、前原遺跡でもバラバラに出土しました。その他にも、まじない用の土製品などが出土し、河川に近い交通の要所として、おまつりが行なわれていたと考えられます。



復元した土馬
【広島県立府中高等学校所蔵】



ミニチュア土製品

築地塀の復元

肥前国庁跡歴史公園より



写真は、国史跡「肥前国庁跡」(佐賀県佐賀市)に復元整備された築地と門です。

前原遺跡でも、赤色顔料の付いた瓦が出土しました。

約1250年前、この写真のように、柱を赤く塗り、瓦を葺いた築地が、前原遺跡にもあったことでしょう。